

無関心な空気 危機感

「弱者の声届かぬ」「反権力に反発増えた」

「共謀罪」法案が23日、衆院を通過し、議論の場は参院に移った。政府が「テロ対策」を前面に打ち出したことで、法案への関心が高まっていることを懸念する声も出ています。

「共謀罪」参院へ

大阪府豊中市で障害者施設を運営する日野聡也さん(31)は、法案の衆院通過を仕事の合間に知った。「成立したら、署名活動に影響しないか。弱い立場の声がますます届かなくなると感じていた。施設には知的障害や精神障害などがある約10人が通

う。渡せる工賃は限られ、当事者や家族が抱える不安や差別の問題は切実だ。状況を人々に知ってもらい変えていく手段として街頭などで署名集めをしてきた。しかし、共謀罪の創設で人々の様々な接触や関係に捜査当局の監視の可能性が広がったら「面識もない、

小さな団体から街頭で声をかけられて、それだけの人が名前を書いてくれるだろう。政権に批判的な署名を受け止められず、気軽に応じてもらえなくなる」。法案の勉強会にも参加したが、年配の人が目立ち、同世代は少ない。無関心な空気が気がかりだ。

大学院生の千葉真真さん(26)は、法案の可決をインターネット中継で見つめた。「SEALDs」で活動した学生たちがつくったリンク「Read Me」のメンバーで、4月、団体のフェイスブックに「このままでいいの? 共謀罪」という約4分の動画

をアップした。2年前、国会前での安全保障法反対デモに参加した。イヤホンをした公安関係者らしき男性たちが自分を監視していた光景が忘れられない。「自分と関係ない」では済まない。参院では衆院で掘り下げられなかった論点を掘り下げしてほしい。

コラムニストの小田嶋隆さん(60)は今年1月、ツイッターで「一般人は対象にならない」という政府の説明を批判した。これについて「誰が一般人でどんな人間が犯罪予備軍であるかはオレらが決めるのでよろしく」とい

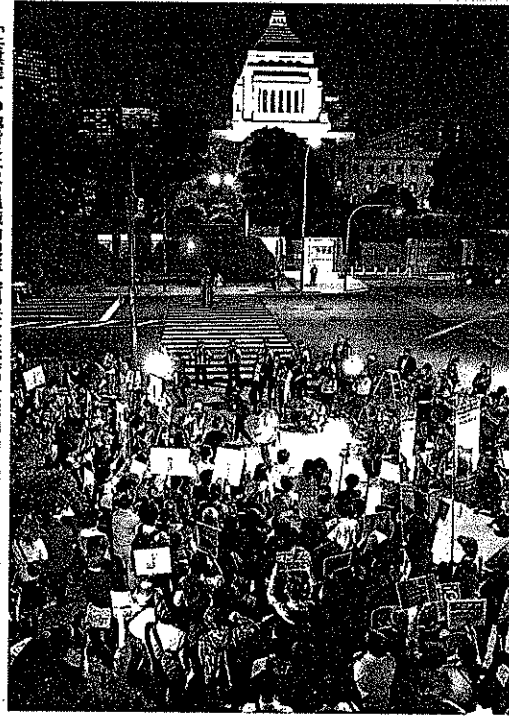
うことだよね?」すぐに反論のツイートが相次いだ。適切な批判するのは小学生レベル(ヘテロ等準備)の文字が読めないの? なんですぐに妄想で語っちゃうの?」

小田嶋さんは「政権の意向に賛成する人」が増えたのではなく、「権力に反発する人間に反発する人」が増えたとみている。キヤスターやジャーナリストら有志14人が集まり、法案に反対の声明を出した先月の記者会見。その数日前、呼びかけ人の元には声をかけた仲間から「賛同できない」と断りの連絡が相次いでいた。

声明に名を連ねた田原総一朗さん(83)は「中立の立場を保たないといけない。反対と言えは立場が苦しくなる」と断られたら

いと明かす。半世紀にわたって報道の現場に立ち続けてきた田原さんだが、共謀罪に対する視聴者の反応は予想に反し、小さいものだった。「そんな空気は非常に危ないな」と思っていますね」(産木肇、岩崎生助)

大阪で抗議運動 「共謀罪」法案の衆院通過への抗議運動が23日夕、大阪・梅田であった。市民団体や労働組合などがつく



「共謀罪」の趣旨を含む組織的犯罪処罰法改正案の衆院通過を受け、国会議事堂に向かって反対の声を上げる人々。23日午後7時41分、東京・永田町、西畑志明撮影

「政府抗議 中身ない」

書簡巡り 国連特別報告者

国連特別報告者のジョセフ・カナタチ氏(マルタ大学教授)が安倍晋三首相あてに寄せた「共謀罪」に関する書簡をめぐり、カナタチ氏と政府の間で激しいやりとりが続いている。人権侵害を懸念するカナタチ氏に対し、政府は「一方的な内容は不適切」と抗議。議論は平行線のままだ。書簡は、プライバシー権

に関する特別報告者のカナタチ氏が18日付で首相宛てに送付。「共謀罪」法案について、「プライバシーや表現の自由を制約するおそれがある」と指摘した。政府は22日、「特別報告者は国連の立場を反映するものではない。内容は不適切だ」と反論。外務省を通じて抗議した。国連の国際組織犯罪防止条約に加わる

ために「共謀罪」が必要だ、と再三説明してきたことが背景にある。政府の抗議を知ったカナタチ氏は、法案に反対する海渡雄一弁護士呼びかけに返信する形で再反論した。22日付のメールで「抗議は怒りの言葉が並べられているだけで、全く中身がない」と述べた。野党はこの書簡を重要視。23日の衆院本会議で、民進党の逢坂誠一氏は「国際法秩序に適合していない」と指摘されたも同然。法案提出を再考すべきだ」と迫った。(後藤泰太、山本亮介)

デジタル版に動画